

青森家庭少年問題研究会では、平成25年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生等を対象に、学習支援活動を行っています。

青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、現在ひとり親家庭の子どもたち12人を対象に、ボランティア登録してくれた県立保健大学の学生さんが、子どもたちの学習進度に合わせて1対1を原則に勉強を教えています。

■今年度前半の行事報告です。

①お花見会(4月15日合浦公園)

早咲きの桜に合わせたかのようなぴったりの日程、満開の桜の下、子どもたち・学生さんのチームで公園内の「聖地巡礼&撮影会」のあと、出店で各自お気に入りの食べ物を購入、おにぎり・焼鳥も食べながら、思い思いの時間を過ごしました。

②スポーツ交流会(6月17日大学体育館)

ラジオ体操、障害物競走、ドッジビーに全員で真剣に挑みました。「こうすればうまく飛ぶよ」と子ども同士のアドバイス、子どもより必死になっている学生さん…普段と違った表情が新鮮でした。



③キャンプ(9月22-24日モヤヒルズ)

3年ぶりの宿泊となりました。弘前サタ☆くらの皆さんも合流し、賑やかなキャンプとなりました。各ケビンごとの特製カレー、卵料理のアレンジが色とりどりだった

昼食、ふかふかの棒パン、満腹バーベキューとおいしいものだらけでした。日中は勉強に集中、秋桜のフォトコンテスト、夜は「クモタニさん」の怖いお話…。皆さんの順応力、団結力で事故なく終了しました。

■児童福祉研究会が「学長表彰」を受けました

県立保健大学児童福祉研究会は、創設以来サタディ☆くらぶの活動を継続してきました。この度、社会貢献活動において特に顕著な功績をあげたとして、「令和5年度学長賞」を受けることになりました。



■東北ろうきん様から「助成金」を受けました

東北ろうきんでは、20周年を記念して東北地方の大学生ボランティア活動向け助成金「未来へのタスキ」を創設され、児童福祉研究会が3年間10万円の助成金を受けることが決まりました。



これからも、子どもたちの学習・居場所づくりのため、なお一層精進して参ります。